

たろうづか じろうづか 太郎塚古墳・次郎塚古墳の調査



写真1 太郎塚古墳（左）・次郎塚古墳（右）

所在地：別府市大字北石垣字天神畑

調査の情報

調査機関：別府大学文化財研究所

調査期間：平成19年（2007）2月1日～2月22日

平成20年（2008）12月13日～平成21年（2009）4月30日

調査担当者：上野淳也（別府大学文学部 准教授）

玉川剛司（別府大学文化財研究所 研究員）

報告書：2013『実相寺古墳群』別府大学文化財研究所

報告書担当者：玉川剛司（別府大学文化財研究所 研究員）

第3章第1節1で報告する太郎塚古墳及び次郎塚古墳の発掘調査の結果は、平成19年度・20年度に行われた別府大学文化財研究所による調査成果（2013『実相寺古墳群』別府大学文化財研究所）を同研究所の承諾を得て掲載するものである。掲載にあたり本書の体裁にあわせるため若干の修正を加えている。

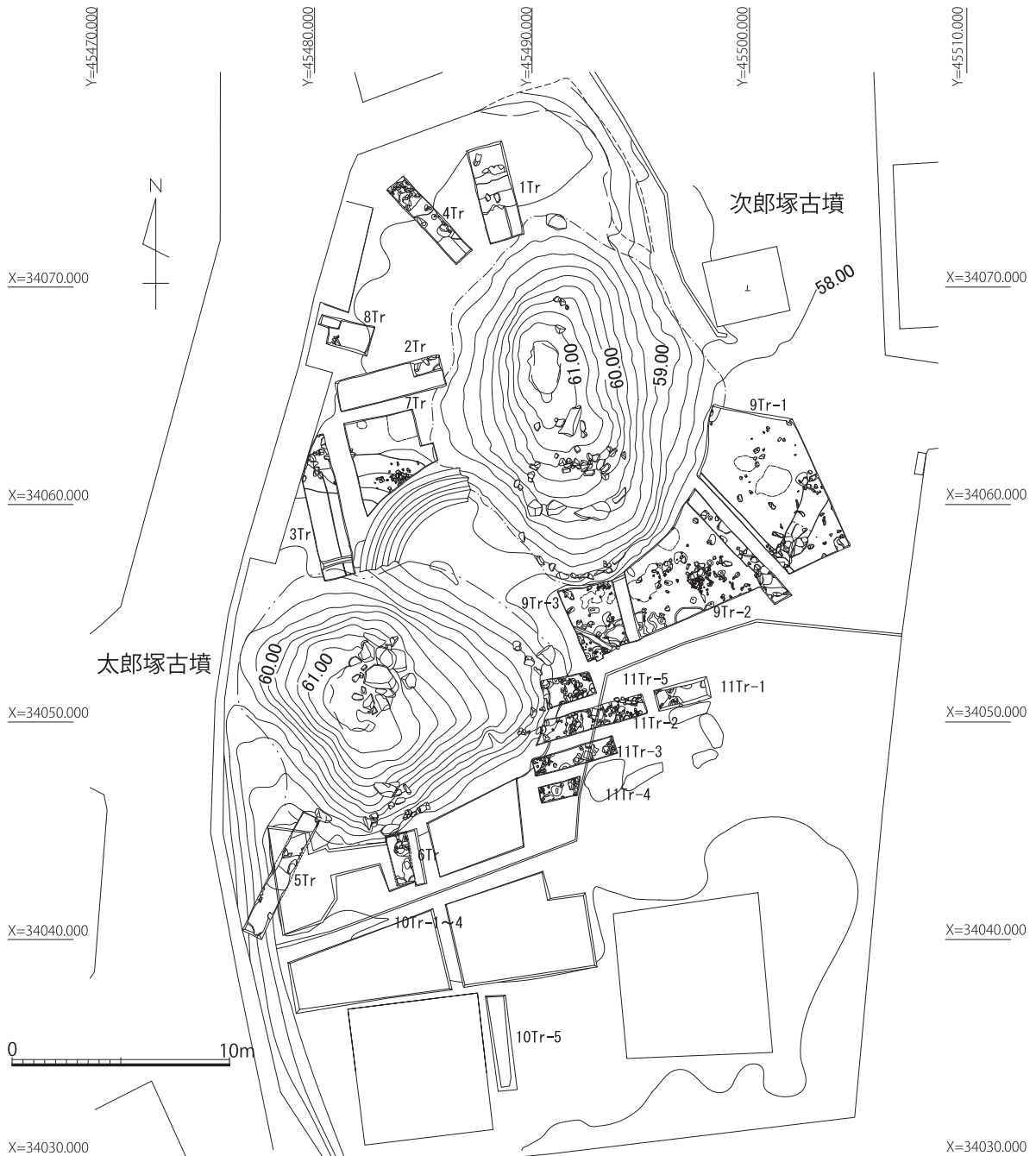
第3章 調査の成果

第1節 実相寺古墳群の調査

1 太郎塚古墳・次郎塚古墳の調査

太郎塚古墳と次郎塚古墳は、現状で2.5 m程しか離れておらず、かなり隣接して所在している。19・20年度の学術発掘調査では、2基の古墳の墳丘規模及び墳形と築造時期の確認のため、太郎塚古墳に3・5・6・7・10・11トレンチの計6カ所、次郎塚古墳には1・2・4・8・9トレンチの計5カ所を設定し確認調査を実施した（第4図）。

調査の詳細については、各古墳ごとに述べていく。



第4図 太郎塚・次郎塚古墳トレンチ配置図 (1/300)

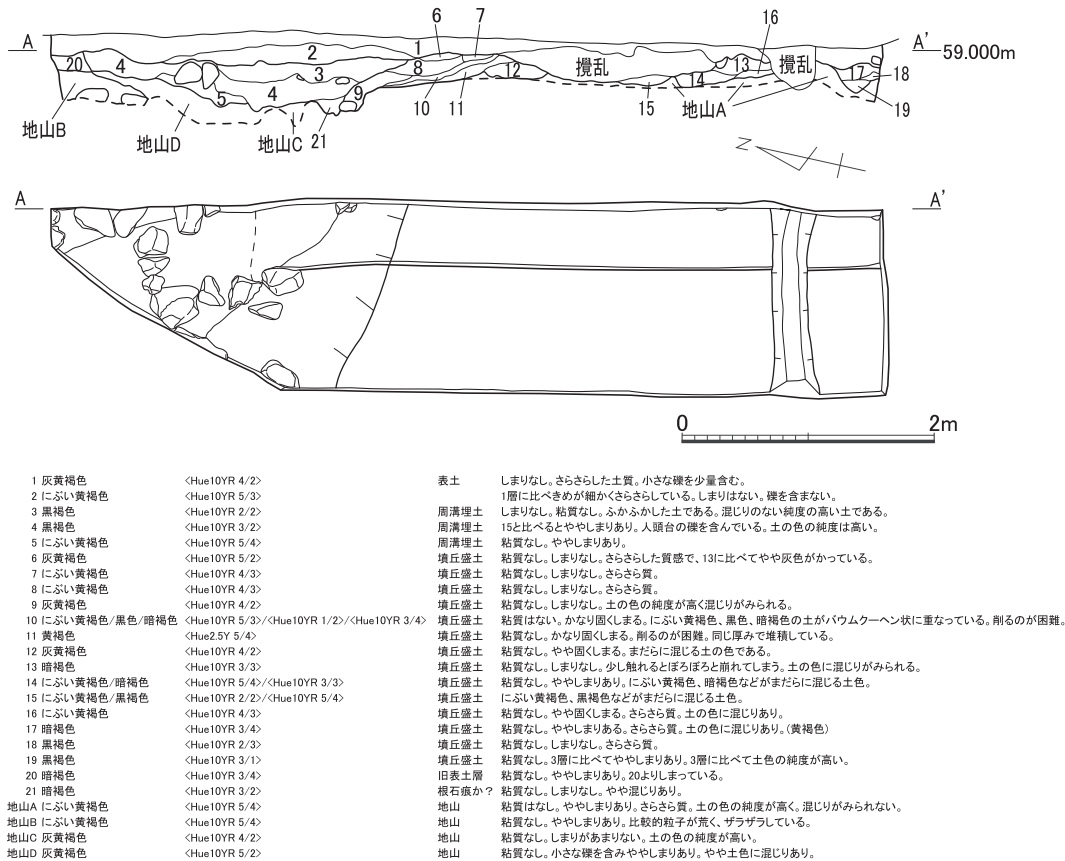
太郎塚 3 トレンチ (第5図)

太郎塚古墳の周溝及び墳形の確認のため、墳丘北側の花壇に沿って長軸 6.6 m、短軸 4.8 m、幅 1.5 m の台形状に調査区を設定した。調査の結果、調査区北側より 2.7 m の地点で周溝を検出した。また、調査区北側から 2.5 m で墳端と思われる墳丘盛土の立ち上がり、さらに南側で墳丘盛土を確認した。検出した墳丘盛土の堆積状況を確認するため、長さ 5 m、幅 0.5 m のサブトレンチを設定した。

周溝については、底幅 0.5 m、深さ 0.5 m の逆台形状を呈している。土層の堆積状況は、3～5 層が周溝埋土で、礫を含みながらレンズ状に堆積し、周溝底には人頭大の礫が流れ込んでいる。これらの礫は、葺石もしくは墳端の根石が流れ込んだものであると考えられる。周溝より墳端にかけては、幅 0.5 m の緩やかに傾斜したテラス面が確認でき、4 層が埋土として堆積している。

墳端については、9 層と 21 層の境あたりで、墳丘側に立ち上がる盛土 (6・8 層) がみられることから、墳端であると考えられる。

墳端より南側では、墳丘盛土として 6～19 層が版築状に堆積しているのが確認できた。

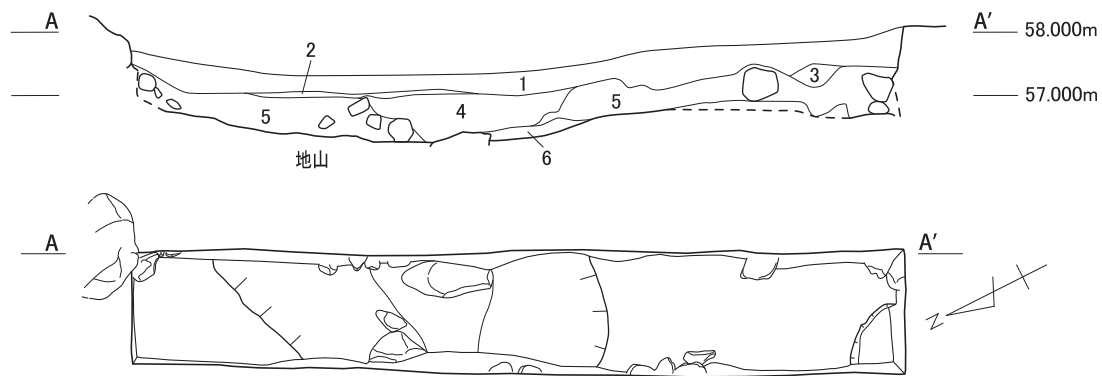


第5図 太郎塚3トレンチ平面図・断面図 (1/60)

太郎塚 5 トレンチ (第6図)

太郎塚古墳の墳形の確認を行なう為、墳丘の南側に長さ 6 m、幅 1 m のトレンチを南西向きに設定した。調査の結果、0.6 m 掘り下げた時点で拳大の礫を含んだ砂質の地山が検出されたものの大規模な削平を受けており、墳丘に伴う遺構は確認できなかった。

土層堆積状況は、1～6 層は攪乱土を含む表土層である。地山は褐灰色土である。



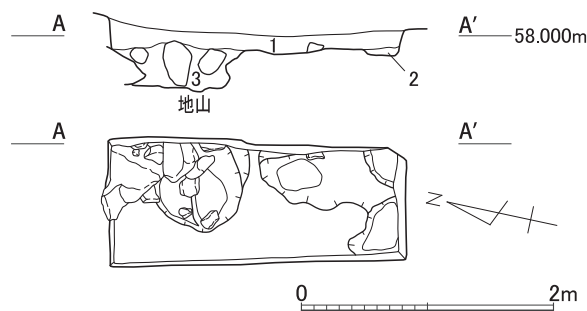
- | | | | |
|--------|----------------|----|--|
| 1 黒褐色 | <Hue10YR 2/2> | 表土 | 粘質は7層の次に弱い。しまり強い。 |
| 2 暗褐色 | <Hue7.5YR 3/4> | | 粘質は1層より弱い。しまりは全体の中で、1番強い。土の粒子が荒く、砂層に近い。 |
| 3 暗褐色 | <Hue7.5YR 3/3> | | 粘質は2層より強い。しまりは1層より強い。砂に近い粒子。40%近く石を含む。 |
| 4 極暗褐色 | <Hue7.5YR 2/3> | | 粘質としまりは、表土より強い。現代のゴミが50%近くある。 |
| 5 黒褐色 | <Hue10YR 2/3> | | 粘質としまりは、表土より少し強い。土の粒子が細かい。小礫など含まない。 |
| 6 褐色 | <Hue7.5YR 4/3> | | 粘質なし。しまりは4層より強い。土の粒子が細かい。2~3cmの小石が10%含む。 |
| 地山 褐灰色 | <Hue10YR 6/1> | 地山 | 粘質なし。しまりなし。土層の中では1番土の粒子が荒く、ほとんど砂でこぶし台の小石を多く含む。 |

第6図 太郎塚5トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

太郎塚 6トレンチ (第7図)

太郎塚古墳の墳形及び石室の入り口を確認をするため、墳丘の南側に長さ 2.35 m、幅 1 m のトレンチを南北方向に設定した。調査の結果、0.1 m 掘り下げたところで地山を検出し、現代の削平を受けているのが確認された。しかし、トレンチ北側端で検出した攪乱は、長さ 1.1 m、幅 0.7 m、深さ 0.3 m を測り、位置が石室の入口と想定される箇所であることから、羨道部右側の腰石を抜き取った痕跡である可能性が高い。

土層堆積状況は、1～3層が攪乱土を含む表土層である。4層の明黄褐色土は、地山でしまり・粘質共に強く、5～10cm程の礫を含む。



- | | | | |
|---------|----------------|-----------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | <Hue7.5YR 3/2> | 表土 | 粘質やや弱い。しまり強い。全体的に1~3cmの礫がやや含まれる。 |
| 2 灰褐色 | <Hue7.5YR 4/1> | 抜き取り後の堆積度 | 粘質ややあり。しまり弱い。小礫を含む。 |
| 3 暗褐色 | <Hue10YR 3/3> | | 粘質やや弱い。しまり弱い。3~5cmの礫を含む。 |
| 地山 明黄褐色 | <Hue10YR 7/6> | 地山 | 粘質強い。しまり弱い。5~10cmの礫を含む。 |

第7図 太郎塚6トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

太郎塚 7トレンチ (第8～10図)

3トレンチで確認した周溝が、どのように巡るのかを確認するため、3トレンチの東側の次郎塚古墳との間に、台形状の調査区を設定した。

調査の結果、3トレンチから続く周溝が、若干丸みをおびて調査区南側に向けて巡るのが確認できた。周溝底からは、地山直上で多くの遺物片を検出した。また、南側の周溝上端ラインを確

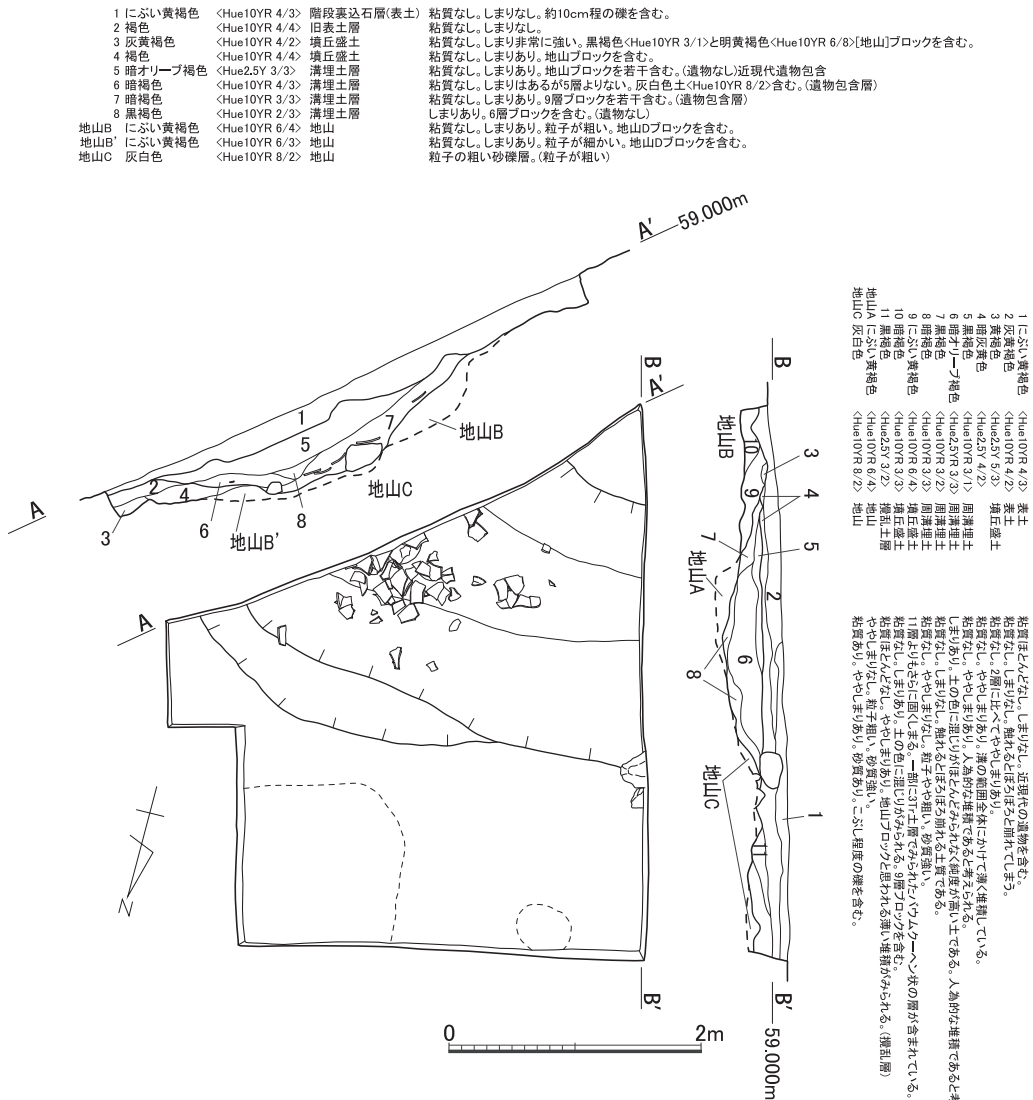
認するため、長さ 0.8 m、幅 0.6 m の拡張部を設定した。

周溝は、調査区西壁で幅 2.0 m、深さ 0.3 m、調査区南壁で 2.8 m、深さ 0.4 m で、断面形態が、台形状を呈している。土層の堆積状況については、西壁面では 5～8 層、南壁面では 5～8 層が周溝埋土である。また、西壁面の南側から 1.3 m 幅で、太郎塚古墳に伴う墳丘盛土（7・9・10 層）が残存しており、南壁面では、次郎塚古墳に伴う墳丘盛土（2～4 層）が確認できた。

周溝内から出土した遺物についての詳細は、後で述べるが、周溝でも一番低い箇所に集中しているため、どちらの古墳に伴う遺物であるかは不明である。しかし、南壁面の 7 層に含まれる遺物が大量であることから、大量については太郎塚古墳に伴うものであると考えられる。

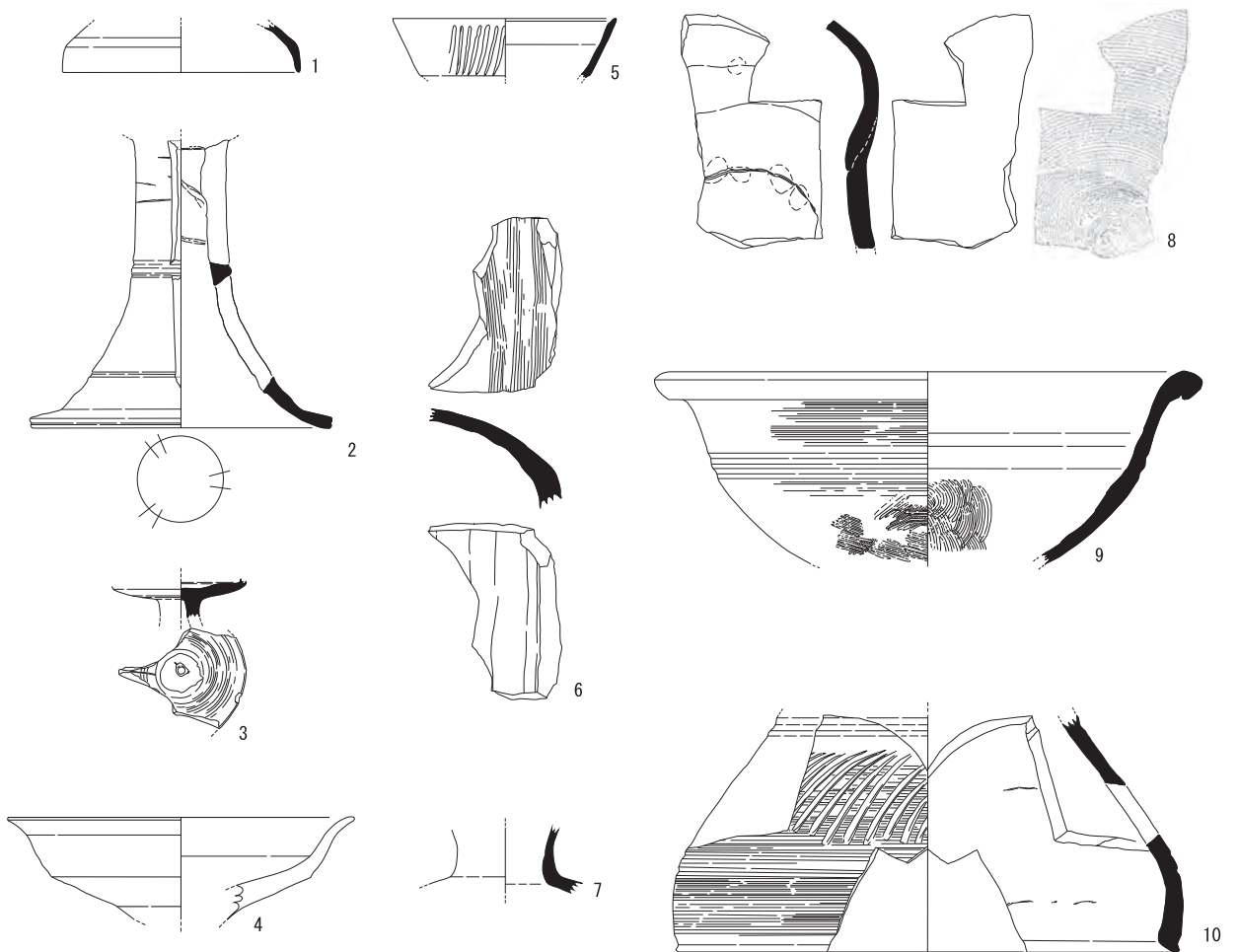
遺物は周溝埋土中より出土している。第 9 図 1～3・5～10・第 10 図 1・2 は須恵器で、第 9 図 4 は土師器である。

第 9 図 1 は坏蓋である。外・内面調整は共に回転ナデを施す。2・3 は高坏。2 は脚部で、復元底径 16.1cm、残存高 15.5cm を測り、脚部中央に 2 条の沈線、裾部付近に 1 条の沈線を巡らせ

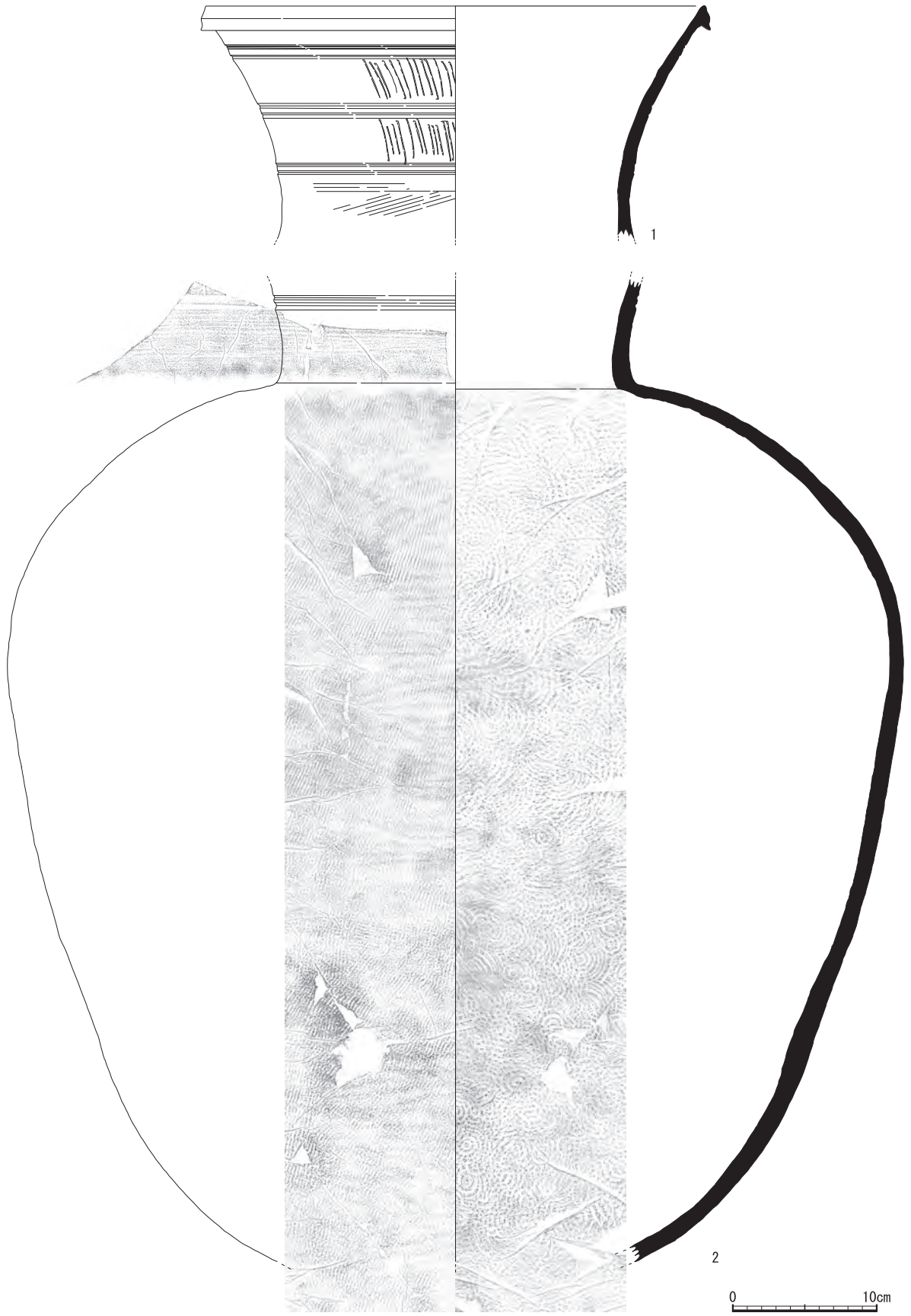


第 8 図 太郎塚 7 トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

ている。また、方形スカシが2段で、3方向にあげられて、外面調整は回転ナデを施す。内面調整は全体に回転ナデ、上部にシボリを施す。3は高坏の坏底部である。坏部屈曲部径7.0cm、残存高2.1cm、脚部頸部径2.5cmを測る。外面調整は全体に回転ナデ後、受部にカキ目を施す。また、一部赤焼けており、受部にヘラ記号がある。内面調整は回転ナデを施しており、灰かぶり釉がかかっている。4は土師器の高坏の坏部である。復元口径18.6cm、残存高5.5cmを測る。外・内面調整は共に回転ナデを施す。5は壺の口縁部である。復元口径12.0cm、残存高3.2cmを測る。外面調整は回転ナデ後ヘラ工具施文を施す。内面調整は回転ナデを施す。6は横瓶の胴部である。外面調整は全体に回転ナデ、一部に工具ナデを施す。内面調整は回転ナデを施す。7は提瓶の頸部で、残存頸部径は6.0cm、残存高は3.5cmを測る。外・内面調整は共に回転ナデを施す。外面に一部灰かぶり釉がかかっている。8は提瓶の底部である。外面調整はカキ目を施す。内面調整は回転ナデを施し、一部にユビ圧痕が見られる。また、一部に灰かぶり釉がかかっているためその対面に口があったと思われる。9は器台の坏部である。復元口縁径29.4cm、残存高10.3cmを測り、坏部中央部に2条の沈線を巡らせている。外面調整は全体に回転ナデ、沈線より下位にカキ目後タタキを施す。内面調整は回転ナデを施し、アテ具痕がみられる。また、灰かぶり釉がかかっている。10は器台の脚部である。復元底径27.0cm、残存高12.7cmを測る。外面調整は全体にカ



第9図 太郎塚7トレンチ出土遺物1 (1/4)



第10図 太郎塚7トレンチ出土遺物2 (1/4)

キ目後三角スカシ、その上部に1条の沈線、下部に2条の沈線、そして上下の沈線間に左下から右上方向へのハケを施す。また、灰かぶり釉が2条の沈線より上位にかかっている。内面調整は回転ナデを施す。第10図1・2は大甕の同一個体である。1は大甕の口辺部である。復元口径34.6cm、残存高16.2cmを測る。外面調整は2条の沈線が3組あり、その3組の沈線間に工具による線状文、沈線より下位に回転カキ目後ナデを施す。工具による線状文については、回転中に板状の工具を土器表面にあて、刻むように付けたものだと思われる。また、この文様は波状文を施す方法と同系統の作業方法である。内面調整は回転ナデを施す。2は大甕の口辺部から胴下半部である。残存高は68.7cmを測り、口辺部に2条の沈線を巡らせる。外面調整は口辺部に回転ナデ、胴上半・中央部にタタキ、胴下半部にタタキ後カキ目を施す。内面調整は口辺部に回転ナデを施し、アテ具痕がみられる。また、胴下半部に打ち欠いた際の痕跡がみられる。

出土して遺物の時期は、TK43～TK209並行期であると考えられる。

太郎塚 10 トレンチ

太郎塚古墳の墳丘南側に石室入口が想定される事から、開口部の遺存状況及び墳丘規模の確認のために5区の調査区を設定し、樹木を避けて調査を行った。調査区の総面積は、267㎡である。

調査の結果、全面的に削平を受けており、墳丘に伴う遺構は検出できなかったため、図の掲載については省略したい。

太郎塚 11 トレンチ (11tr-1・11tr-2・11tr-3・11tr-4・11tr-5) (第11・12図)

墳丘の端部や周溝確認を目的として、墳丘東側に設置されたフェンスをまたいで5本のトレンチを南北方向に設定した。11tr-1・2を長さ8m、11tr-3を長さ4m、11tr-4を長さ2m、それぞれの幅を1mで設定した。また、11tr-5を長さ2.5m・幅1.5mで設定した。全てのトレンチにおいて地表から20～30cmは表土である。

調査の結果、11tr-2と11tr-5から墳丘盛土と思われる層を検出し、トレンチ墳丘側(11tr-2、11tr-3、11tr-4、11tr-5)より北東から南に若干カーブする周溝が検出された。周溝の幅は1.8m程である。

11tr-1・11tr-2

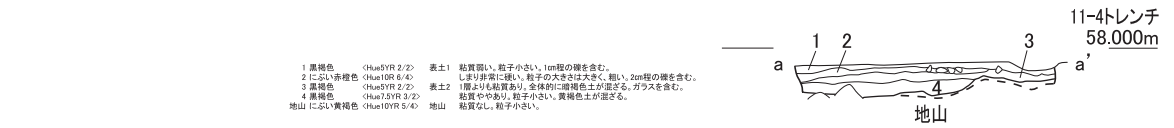
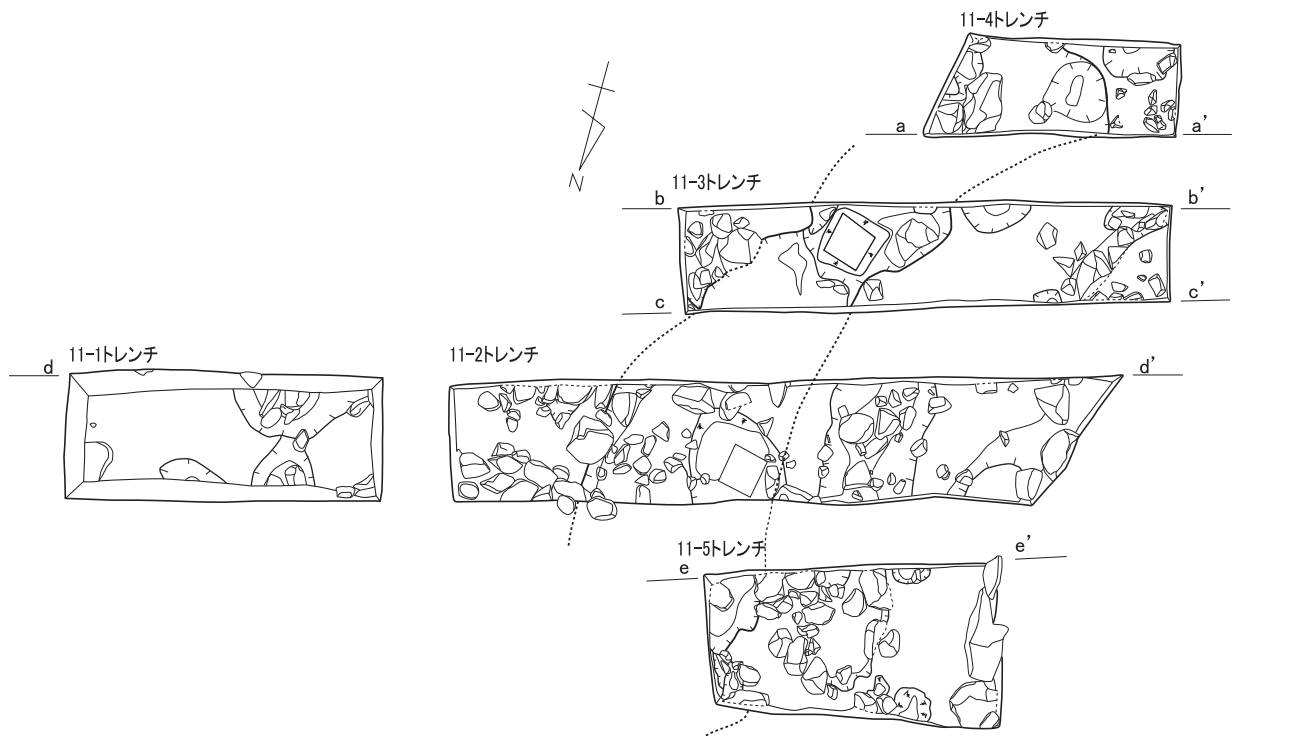
墳丘側で盛土の一部と考えられる層を検出した。幅1.8mほどの地山層削り出しによる溝が検出された。

11tr-2のにぶい黄褐色土層(地山)直上に堆積する9層が墳丘の盛土と考えられる。トレンチ墳丘側から2.2mの所に地山の掘り込みが確認できる。これは、地山を掘り込み土手を作ることによって、墳丘からの盛土の流出を防ぐための工程ではないかと考えられる。またこの地山の掘り込み上端から傾斜の緩やかな溝が確認された。周溝と考えられ幅1.8mを測る。

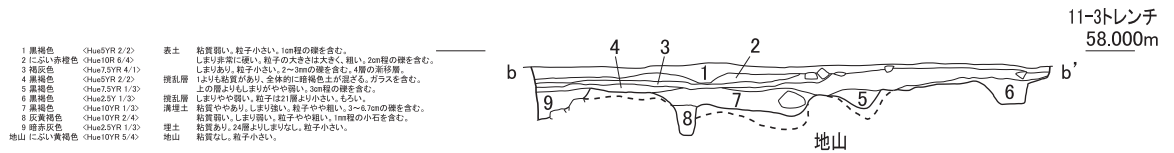
11tr-3

墳丘側は地山の層まで削平を受けているため墳丘盛土は確認できなかった。しかし、トレンチ中央より地山層削り出しによる周溝と考えられる溝を検出した。

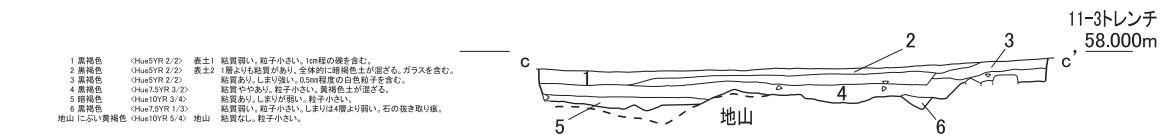
周溝は、トレンチ中央部東側に地山を掘りこみ、幅2.2mを測る。7～9層が周溝の埋土である。



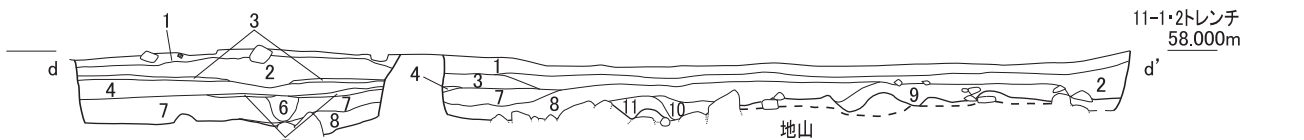
- | | | |
|-------------------------|-----|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土1 | 粘質弱い、粒子小さい、1cm程の礫を含む。 |
| 2 に近い赤褐色 (Hue10R 6/4) | 表土2 | しまり非常に強い、粒子の大きさは大きく、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 3 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざる。ガラスを含む。 |
| 4 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) | 地山 | 粘質ややあり、粒子小さい、黄褐色土が混ざる。 |
| 地山 に近い黄褐色 (Hue10YR 5/4) | 地山 | 粘質なし、粒子小さい。 |



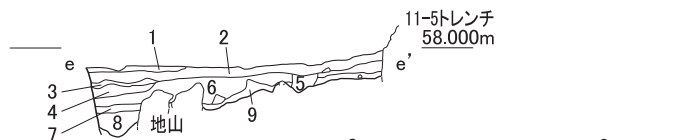
- | | | |
|-------------------------|-----|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土 | 粘質弱い、粒子小さい、1cm程の礫を含む。 |
| 2 に近い赤褐色 (Hue10R 6/4) | 表土2 | しまり非常に強い、粒子の大きさは大きく、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 3 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 埋戻土 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざる。ガラスを含む。 |
| 4 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 5 暗褐色 (Hue7.5YR 5/8) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 6 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 7 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 8 暗褐色 (Hue7.5YR 5/8) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 9 暗褐色 (Hue7.5YR 5/8) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 地山 に近い黄褐色 (Hue10YR 5/4) | 地山 | 粘質なし、粒子小さい。 |



- | | | |
|-------------------------|-----|-------------------------------|
| 1 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土 | 粘質弱い、粒子小さい、1cm程の礫を含む。 |
| 2 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざる。ガラスを含む。 |
| 3 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざる。ガラスを含む。 |
| 4 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) | 表土2 | 粘質ややあり、粒子小さい、黄褐色土が混ざる。 |
| 5 暗褐色 (Hue7.5YR 5/8) | 表土2 | 粘質ややあり、粒子小さい、黄褐色土が混ざる。 |
| 6 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 粘質弱い、粒子小さい、1cm程の礫を含む。 |
| 地山 に近い黄褐色 (Hue10YR 5/4) | 地山 | 粘質なし、粒子小さい。 |



- | | | |
|-------------------------|-----|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土1 | 粘質弱い、粒子小さい、1cm程の礫を含む。 |
| 2 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざっている。ガラスを含む。 |
| 3 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざっている。ガラスを含む。 |
| 4 に近い赤褐色 (Hue10R 6/4) | 表土2 | しまり非常に強い、粒子の大きさは大きく、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 5 暗赤褐色 (Hue10YR 5/6) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざる。ガラスを含む。 |
| 6 暗褐色 (Hue7.5YR 5/8) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、暗褐色土を少量含む。 |
| 7 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 8 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 9 暗赤褐色 (Hue10YR 5/6) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 10 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 11 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) | 埋戻土 | 粘質ややあり、しまり強い、粗い、2cm程の礫を含む。 |
| 地山 に近い黄褐色 (Hue10YR 5/4) | 地山 | 粘質なし、粒子小さい。 |



- | | | |
|-------------------------|-----|---|
| 1 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土1 | 粘質弱い、粒子小さい、1cm程の礫を含む。 |
| 2 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざっている。ガラスを含む。 |
| 3 黒褐色 (Hue5YR 2/2) | 表土2 | 層より粘質があり、全体的に暗褐色土が混ざっている。ガラスを含む。 |
| 4 暗褐色 (Hue7.5YR 4/1) | 表土2 | 粘質やや強い、しまり強い、全体的に暗褐色土(Hue10YR 7/6)の粒子を含む。 |
| 5 黒褐色 (Hue5YR 3/1) | 表土2 | 粘質やや強い、しまり強い、全体的に暗褐色土(Hue10YR 7/6)の粒子を含む。 |
| 6 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) | 埋戻土 | 粘質弱い、しまり強い、暗色の土層だが、1cm程の小石を含むため、ボロボロしている。 |
| 7 黒褐色 (Hue7.5YR 4/1) | 埋戻土 | 粘質なし、しまりなし、暗色の土層であり、溝状の埋戻土層である。 |
| 8 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) | 埋戻土 | 粘質なし、しまりなし、暗色の土層であり、溝状の埋戻土層である。 |
| 9 暗赤褐色 (Hue10YR 4/2) | 埋戻土 | 粘質弱い、しまり強い、全体的に黄褐色(Hue10YR 5/6)を含む。古墳の埋戻土か。 |
| 地山 に近い黄褐色 (Hue10YR 5/4) | 地山 | 粘質なし、粒子小さい。 |

第 11 図 太郎塚 11 トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

溝の断面形状は、地山に礫が多量に入るため、いびつな形状を呈している。

11tr-4

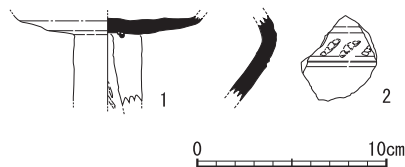
墳丘側の一段高い地山の部分は削平されており、墳丘盛土は確認できなかった。トレンチの墳丘側で地山層削り出しによる溝を確認した。この溝は、周溝であると考えられる。この溝を4層の黒褐色土層が埋土として堆積している。

11tr-5

トレンチ西側で盛土と考えられる層を検出した。東側では地山を掘りこんだ溝状遺構が確認でき、周溝である可能性が高い。

トレンチ西側に地山を掘りこんだ周溝であろうと考えられる溝状遺構が確認でき、それを7層の褐灰色土層・8層の黒褐色土層の埋土が水平に堆積している。トレンチ東側では、墳丘盛土と考えられる、9層の灰黄褐色軟質土が地山直上に堆積している。溝状遺構と墳丘盛土は、地山に入りこんだ幅50cmほどの石2つで隔てられている。

第12図1・2はトレンチ内の周溝から検出された遺物である。1は高坏の脚部から坏身の破片である。脚部は3方向スカシであり、脚部上側にシボリが確認される。2は甕の破片である。胴部外面には、上位に1条、下位に2条の沈線を巡らせ、その間にナナメ方向の刺突文が施されている。2条の沈線より上位は自然釉の付着が確認される。

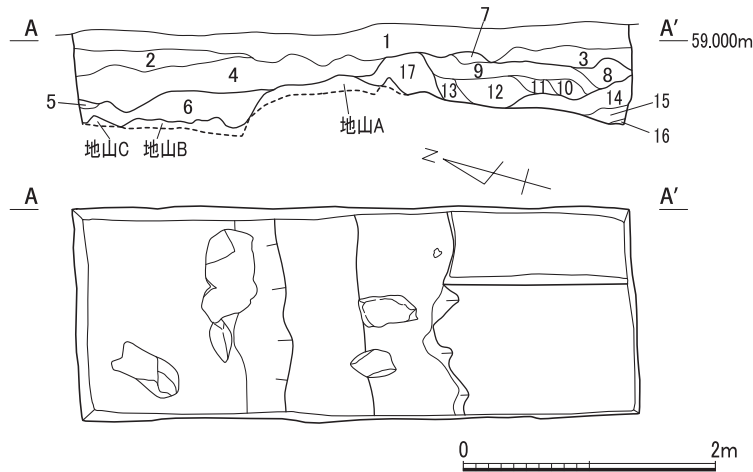


第12図 太郎塚11トレンチ出土遺物(1/4)

次郎塚 1 トレンチ (第 13・14 図)

次郎塚古墳の周溝および墳形の確認のため、墳丘の北側に長さ 4.5 m、幅 1.5 m の調査区を設定した。掘り下げの結果、調査区北側より 1.2 m のところで墳端、1.7 m のところで 4 トレンチの周溝に繋がる周溝の上端、周溝上端から調査区南側までの間には墳丘盛土を検出した。また、墳丘盛土の状況を確認するために、長さ 1.5 m、幅 0.5 m のサブトレンチを設定し掘り下げた。

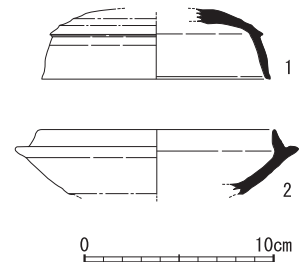
周溝は、深さ 0.5 m で対岸の立ち上がりは検出できなかった。土層の堆積状況は、5・6 層が周溝埋土で、4 層は厚く堆積しているため、短期間で墳丘側から流れ込んだものと考えられる。また、最下層の地山 B・C は、地山 A と同じ黄褐色系の土層であるが、B・C は A よりも締まりがないことから地山の風化土もしくは、地山の再堆積層である可能性がある。



1 黄褐色	表土	粘質はややある。しまりなし。粒子細かい。砂質あり。5~6cm台の礫を若干含む。
2 極暗赤褐色		粘質あり。1より多少強い。粒子は細かい1と同じくらいの粒子。砂質は多少あり。1よりはない。混粒物は、1~2cm台の礫を多少を含む。
3 橙色		粘質あり。1, 2より粘質は強い。粒子は細かい1, 2と同じくらいある。砂質あり2よりもある。混粒物はブロックを含む。
4 黒褐色		粘質強い。粒子は細かい2と同じくらい。砂質は一部あり。混粒物は、3~4cmの礫を少量含む。
5 黒色	周溝埋土	粘質あり。しまりは強い。粒子は細かい。砂質なし。混粒物なし。
6 黒色	周溝埋土	粘質あり。しまりあり。粒子は上と同じくらいの細かさ。砂質あり。他よりもある。混粒物はブロックを少量含む。
7 明黄褐色	墳丘盛土	粘質あり。1と同じくらいの粘質。1, 2と同じくらいのしまり。粒子は細かい1, 2と比べて変わらない。混粒物は、ハミスを少量含む砂質あり。
8 暗褐色	墳丘盛土	粘質あり。しまりあり。粒子は細かい。混粒物はこぶしより大きいブロックを含む砂質なし。
9 褐色	墳丘盛土	粘質あり。3と同じくらい。しまりあり。粒子も細かい3と同じくらいの細かさ。混粒物はブロックを含む砂質なし。
10 明黄褐色	墳丘盛土	粘質9に比べるとない。しまりが強い。粒子は細かい。砂質あり。混粒物はハミスを含む。
11 明黄褐色	墳丘盛土	粘質9に比べるとない。粒子は10とほぼ同じ。砂質あり。混粒物はブロックを少量含む。10よりもやや黒味を帯びる。
12 にふい黄褐色	墳丘盛土	粘質あり。しまりがあるが一部しまりがない部分もある。粒子は大きい。砂質あり。混粒物はブロック、ハミスを含む。
13 明黄褐色	墳丘盛土	粘質あり。しまりあり。粒子は上に比べて大きい。砂質あり。混粒物はブロックを少量含む。
14 にふい黄褐色	墳丘盛土	粘質あり。1よりはしまりあり。粒子は8よりは少し大きい。砂質なし。混粒物はブロックを少量含む。
15 明黄褐色	墳丘盛土	粘質あり。しまりは強い。粒子は細かい。砂質多少あり。混粒物はブロックを含む。
16 明黄褐色	墳丘盛土	粘質あり。しまりは強い。粒子は細かい。砂質なし。混粒物なし。
17 明褐色	墳丘盛土	粘質あり。しまり一部ない。粒子は細かい。砂質あり。混粒物なし。
地山A にふい黄色	地山	粘質あり。しまりあり。粒子は細かい。砂質なし。混粒物はブロックとハミスを少量含む。
地山B 黄褐色	地山	粘質あり。しまりなし。粒子は若干細かい。砂質なし。混粒物はハミスを含む。
地山C 黄褐色	地山	粘質あり。しまりBよりあり。粒子は細かい。砂質なし。混粒物はハミスを含む。

第 13 図 次郎塚1 トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

墳端から墳丘盛土が残っている間については、幅 1.4 m のテラス面がみられ、8 層が埋土として堆積している。またテラスにみられる 17 層については、南側で地山の掘り込みが墳丘側に向かって緩やかに傾斜しており、その上位の 8 ~ 16 層が細かい単位で版築状に堆積していることから、墳丘盛土の土留めのための機能があったものと考えられる。17 層では、TK10 期並行の坏蓋(第 14 図 1) が出土しており、TK10 期よりも新しい時期に築造されたことがわかる。



第 14 図 次郎塚1 トレンチ出土遺物 (1/4)

出土遺物については、第 14 図 1 ~ 2 は須恵器である。1 は坏蓋で、復原口径 12.1cm、残存高 3.95cm を測る。外面の稜は明瞭で、

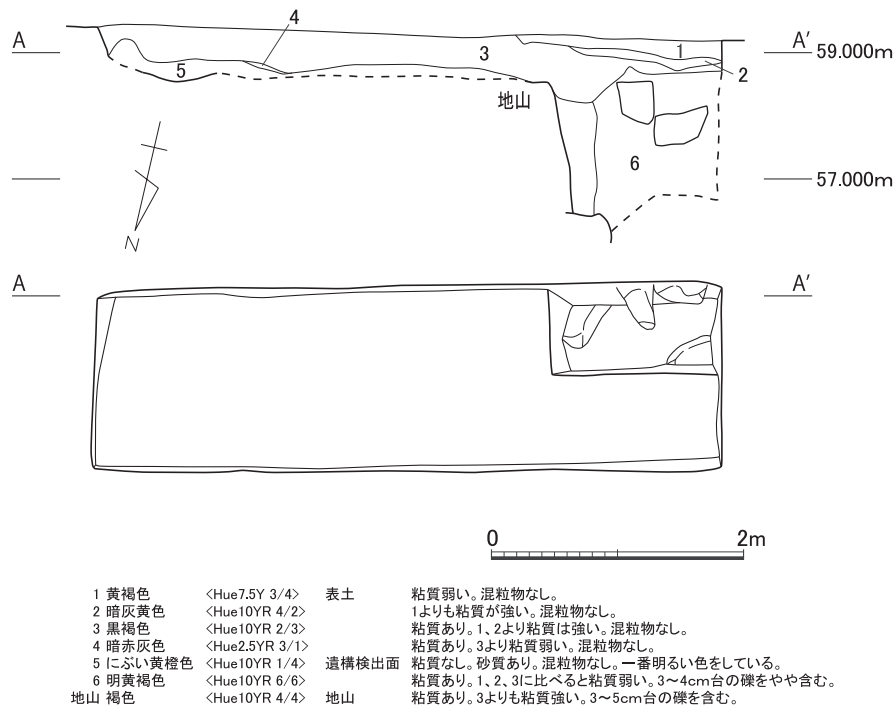
口縁端部はやや外反し、内面には段を有する。調整は外面の天井部に回転ヘラケズリ、稜より内面天井部まで回転ナデが施されている。胎土は石英と白色粒子を含み、焼成は良好である。色調は外面が黄灰色で、内面も黄灰色である。2は坏身で復原口径 12.4cm、最大径 15cm、残存高 3.4 cmを測る。外面の稜はあまり見られず、残存外面端部に回転ヘラケズリが若干見られる。調整は外面、内面ともに回転ナデが施されている。胎土は石英、長石、白色粒子を含み、焼成は良好である。色調は外面が褐灰色で、内面は黒褐色を呈す。遺物の時期は、1がTK10並行期、2は、TK43並行期であると考えられる。

次郎塚 2トレンチ (第15図)

次郎塚古墳の周溝を確認するために、墳丘西側の平坦面に長さ 4.7 m、幅 1.0 mのトレンチを設定した。

調査の結果、地表面より 0.4 m掘り下げたところ、黄褐色の地山と思われる層を検出した。そこで、地山かどうかを確認するために、トレンチ東側に長さ 1.25 m、幅 0.8 mのサブトレンチを設定し掘り下げをおこなった。

土層堆積状況は、1～4層は自然堆積で、全体的に西から東に向けて下降しながら堆積している。5層のにぶい黄橙色土において、明るい地山のような色調の層が検出された。サブトレンチを地表面より 1.5 m掘り下げたところで、褐色土の地山層を確認した。また、サブトレンチ内の6層明黄褐色土は整地による攪乱層だと考えられる。結果として周溝と考えられるような遺構は検出されなかった。



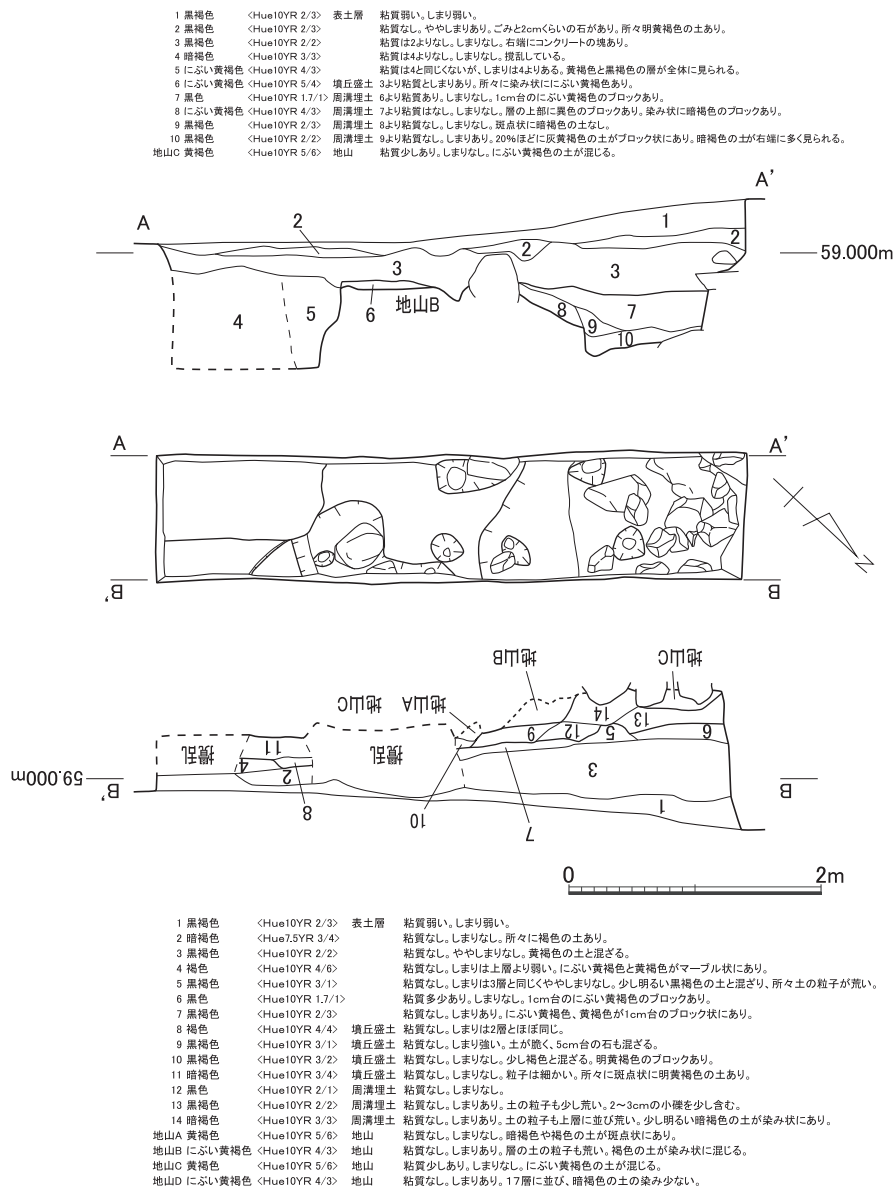
第15図 次郎塚2トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

次郎塚 4 トレンチ (第 16・17 図)

次郎塚古墳の北側に位置する 1 トレンチの西側で確認された周溝の続きを確認するため、長さ 5.0 m、幅 1.0 m の調査区を設定した。

調査の結果、墳丘側から 2.2 m まで大きく攪乱を受けているが、墳丘盛土及び墳端と周溝を検出した。墳端は、トレンチ墳丘側から 3.3 m 地点で弧を描くように確認された。

土層堆積状況は、西側壁面 A-A' の 3・4 層は、表土及び攪乱である。5 層は土坑埋土で、にぶい黄褐色土層であるが、しまりはなく黄褐色と黒色のブロック土が全体的に見られる。東側壁



第 16 図 次郎塚 4 トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)



第 17 図 次郎塚 4 トレンチ出土遺物 (1/4)

面 B-B' の堆積状況は、1 層は、表土で、2～7 は整地土である。中でも 6 層は、にぶい黄褐色土、しまりがあり、黄褐色土が 1cm のブロック状に入り、強く押し固められた整地土である。8～11 層の墳丘盛土はしまりが強く、墳端に向けて緩やかに落ち込む。12～14 層は、周溝埋土である。また、14 層と地山 B の境が墳端であると思われる。

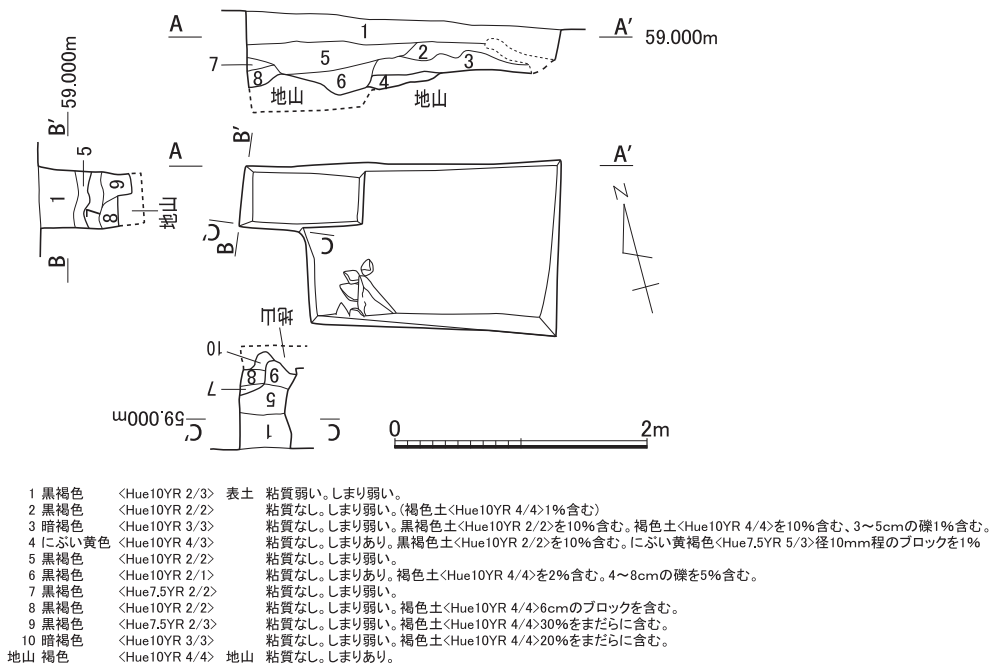
遺物は周溝埋土より出土している。

第 17 図 1 は須恵器で、坏蓋の口縁部のみ残存である。外・内面調整は共に回転ナデを施す。時期は TK209 並行期であろう。

次郎塚 8 トレンチ (第 18 図)

墳丘の規模・周溝の確認のため、2 トレンチと 4 トレンチの間に墳丘の西斜面から北西に向かって長さ 1.2 m、幅 1.5 m のトレンチを設定した。地表面から 0.4 m 掘り下げたところで地山を検出したが周溝は確認できず、1～6 層が表土または攪乱層である事が判明した。トレンチ内に遺構が検出されなかった為、西側に長さ 1 m、幅 0.5 m のサブトレンチを設けた。

7～10 層では黒褐色～暗褐色のしまりと粘性がない周溝の埋土層らしき層を検出したが、周溝とは断定できず、遺構の埋土層とした。

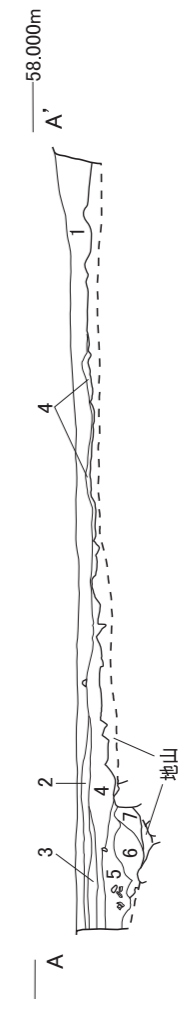
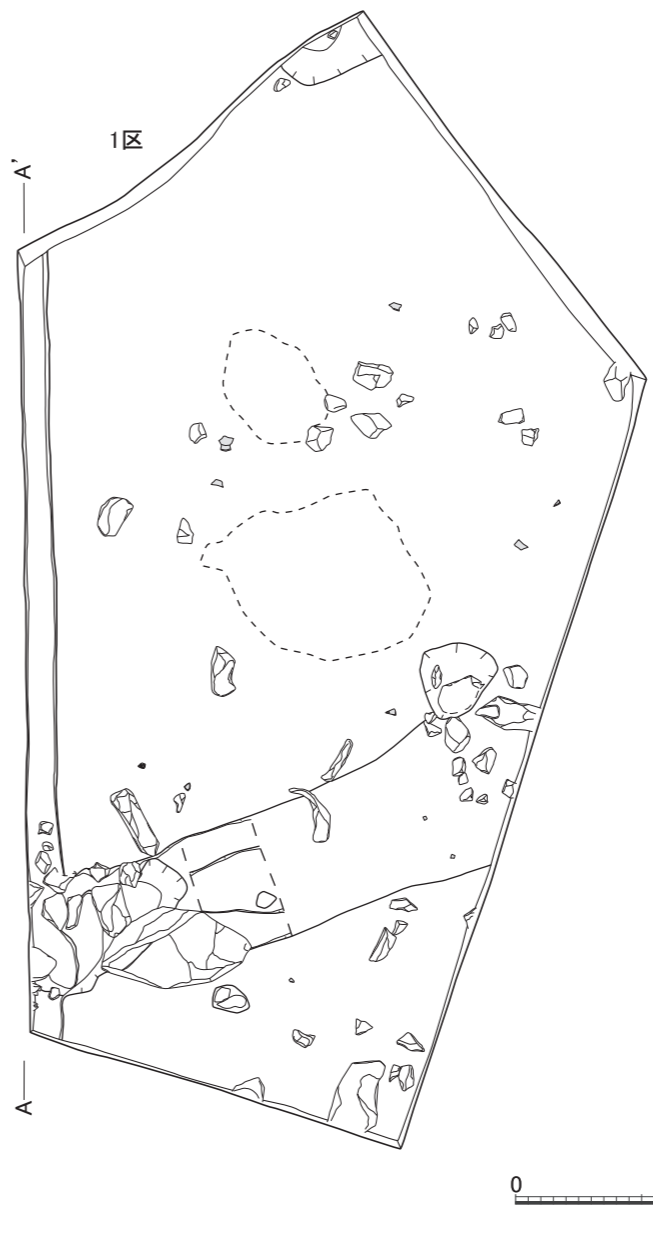
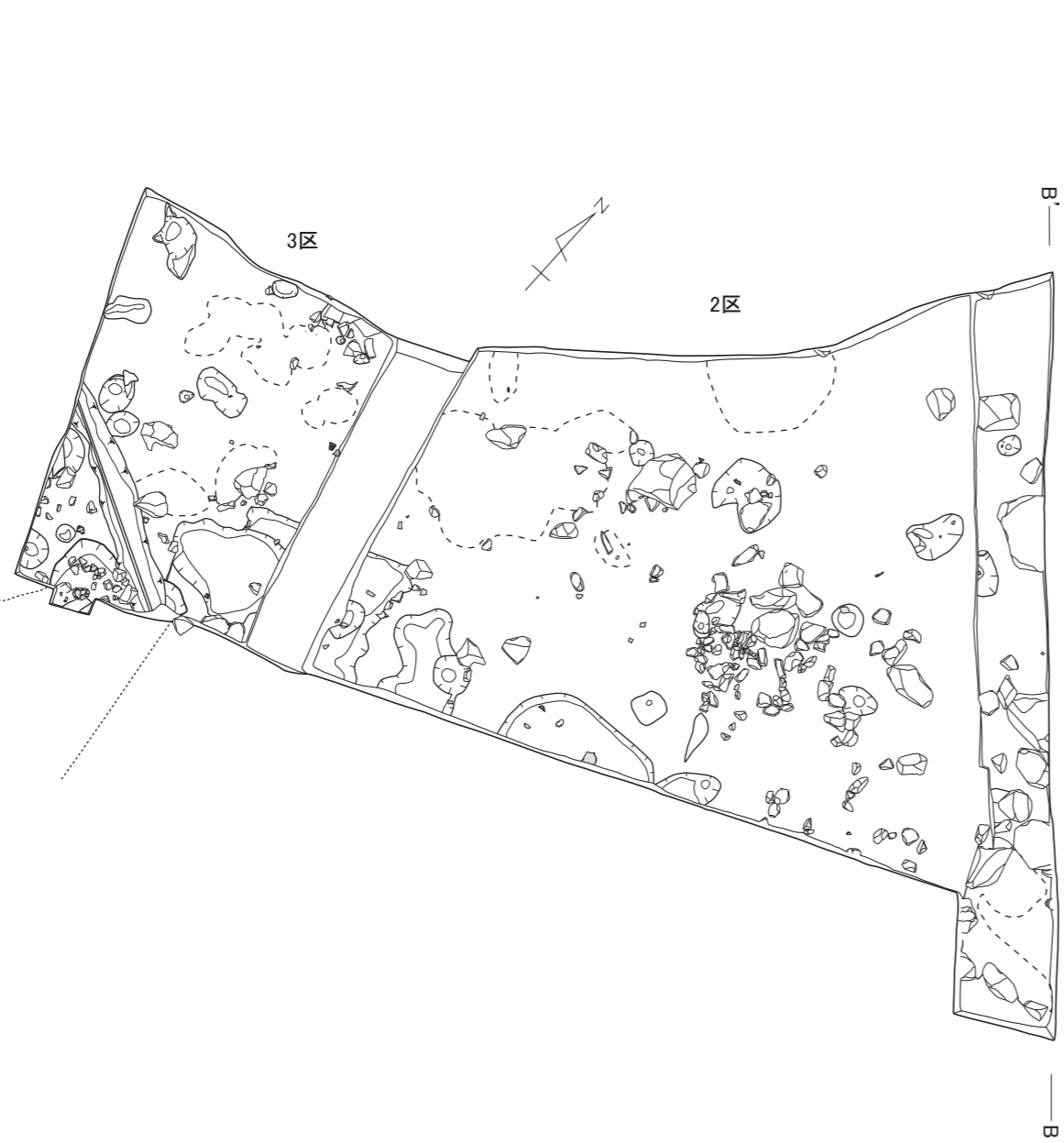
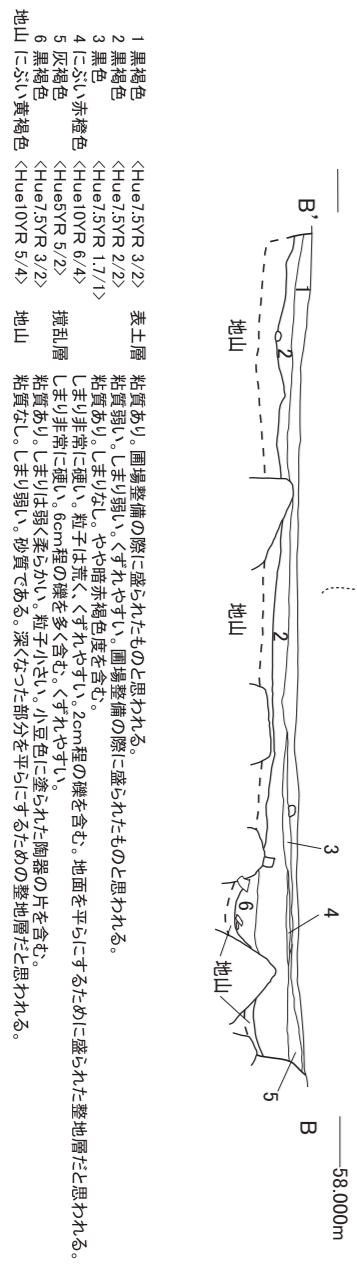


第 18 図 次郎塚 8 トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

次郎塚 9 トレンチ (第 19・20 図)

次郎塚古墳の周溝と墳形、また古墳の入口部であると想定できる箇所を確認するため、墳丘の南側に調査区を設定した。調査区は、平面的に広く確認できるように、東側から 1～3 区を設け調査を実施した。

調査の結果、全体的に削平を受けており、明確な遺構は確認できなかった。しかし、1 区から



- 1 黒褐色 <Hue7.5YR 3/2> 表土層
 2 黒色 <Hue7.5YR 1.7/1> 粘質弱い。しまり弱い。くすれやすい。圃場整備の際に盛られたものと思われる。
 3 にふい赤褐色 <Hue10YR 6/4> 粘質ややあり。粒子も大きさは荒く、2cm程の礫を含む。圃場整備の際に盛られたものと思われる。
 4 黒褐色 <Hue7.5YR 3/2> 粘質ややあり。しまり弱い。くすれやすい。8を平らにするために盛られた整地層と思われる。
 5 黒褐色 <Hue7.5YR 3/1> 粘質あり。粒子小さい。3~6cm程の石を含む。小豆色に染られた陶器の片を含む。
 6 にふい黄褐色 <Hue7.5YR 4/3> 粘質あり。しまりは弱く柔らかい。粒子小さい。深くなつた部分を平らにするための整地層と思われる。
 7 褐色 <Hue10YR 4/4> 粘質あり。しまり強い。6と同様に深くなつた部分を平らにするために盛られた整地層と思われる。6よりも先に盛られたものと思われる。
 地山にふい黄褐色 <Hue10YR 5/4> 粘質なし。しまりなし。砂質である。プロソックを含む。

第 19 図 次郎塚9トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

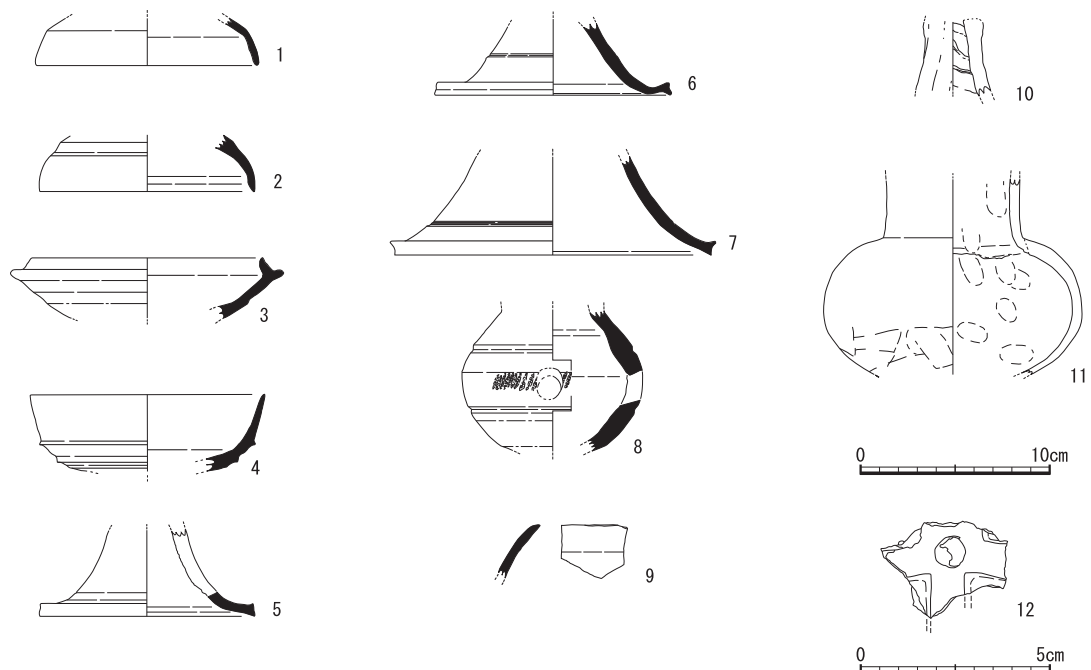
幅 1.0 m の周溝とみられる溝状遺構、3 区から南壁面から 11 トレンチの 5 区で検出した周溝と接続すると考えられる落ち込みを検出した。

1 区で検出した溝状遺構は、調査区西壁面から東壁面の南側にかけて内湾しながら巡っている。深さは、5 ～ 10 cm 程度で、溝の埋土として黒褐色の粘質土が堆積している。この溝状遺構は、次郎塚古墳に沿って巡っていることから、次郎塚古墳に伴う周溝であると考えられる。

3 区の南側壁面で検出した落ち込みは、深さ 12cm 程度で北側に向けて立ち上がっている。この遺構には、須恵器片等が地山直上でまとまって出土し、隣接する 11 トレンチ 5 区で検出された太郎塚古墳の周溝と接続する可能性が高く、トレンチ南側壁面から 0.5 m 北側の地点で途切れることになる。また、墳丘南側の等高線 59.500 m の箇所に羨道部の天井石と考えられる扁平の石材がみられることから、3 区と 2 区の間あたりが次郎塚古墳の内部主体の入り口であると想定できる。

出土遺物（第 20 図）は、1 ～ 9 が須恵器、10・11 が土師器、12 は馬具である。

1・2 は坏蓋である。1 は、復原口径 11.8cm、残存高 2.5cm を測る。外面、内面ともに回転ナデが施されている。口縁端部に段を有さず丸い。2 は、復原口径 11.4cm、残存高 3.0cm を測る。外面の稜はあまり見られず、外面、内面ともに回転ナデが施されている。口縁端部は少し尖っており、内面はわずかに段を有する。3 は坏身で復原口径 12.2cm、残存高 3.2cm を測る。口縁部が内湾し、たちあがりの角度は弱く、短い。受け部はやや上方向に伸び、端部は丸い。4 は高坏で復原口径 11.6cm、残存高 4.0cm を測る。外面の稜が明瞭で、口縁部はやや外傾し、端部は丸い。外面、内面ともに回転ナデが施されている。5 ～ 7 は高坏脚部片である。5 は、復原底径 11.4cm、残存高 4.6cm を測る。通常の高坏に比べるとスカシの位置が低いことから、脚部が短い高坏であろう。6 は、復原底径 12.6cm、残存高 3.8cm を測る。端部まで緩やかに傾斜し、水平になった後、外反している。7 は、復原底径 16.8cm、残存高 5.2cm を測る。端部まで緩やかに外反し、端部は内湾し、



第 20 図 次郎塚 9 トレンチ出土遺物（12：1/2、その他：1/4）

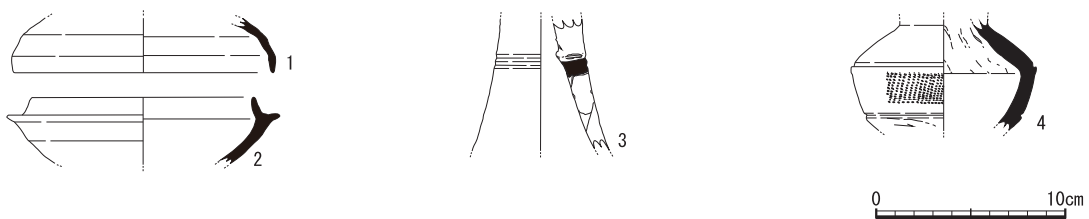
内湾した上部は下部よりやや長い。外面、内面ともに回転ナデが施されている。8は甕で、復原胴部最大径9.5cm、残存高7.5cmを測る。外面は上部より2段面沈線まで回転ナデをし、沈線を入れ、ハケ工具による刺突文後、注口のためのスカシを入れている。内面は回転ナデのみとなっている。9は長頸壺口縁部の破片と思われ、残存高は2.8cmを測る。残存部が小さいため詳細は不明瞭となる。外面、内面ともに回転ナデが施されている。10は高坏脚部片で、復原最大径4.0cm、残存高3.6cmを測る。上部の断面に坏部との接合面が見られた。外面の上方向に向かってヘラケズリが施されており、内面はシボリがある。11は長頸壺で、復原最大径13.5cmで、残存高10.4cmを測る。外面上部から胴部まで回転ナデ、胴部から下部までヘラケズリ、所々にオサエ、胴部に焼成痕が見られた。内面は回転ナデのみとなっている。

12は、鉄地金銅張の三葉形杏葉の破片であると考えられる。全長2.5cm、幅3.3cm、厚さ0.9cm、重さ7.9gを測る。鋳が文様帯の中央にみられる。昭和33年（1958）出土馬具とのかかわりを考えるうえで、重要な遺物である。

9トレンチ出土遺物の時期は、TK43～TK209型式並行で、TK209型式並行が主体であろう。

太郎塚・次郎塚古墳表採遺物（第21a図）

第21の図1～4は須恵器である。1は坏蓋の口縁部である。その口縁部はやや内湾している。外・内面調整は共に回転ナデを施している。外面口縁端部に自然釉がかかっている。2は坏身である。立ち上がりは短く、内傾する。外・内面調整は共に回転ナデを施している。外面受部より下部に自然釉がかかっている。3は高坏脚部である。2条の沈線の上下部にスカシを穿孔する。外・内面調整は共に回転ナデを施している。4は甕の胴部である。外面調整は全体に回転ヨコナデ後下端部にヘラケズリが施される。2条の沈線が巡り、沈線間に連続刺突文が施されている。内面調整は全体に回転ヨコナデ後上部にシボリが施されている。表採遺物の時期は、各トレンチで出土した遺物と同じく、TK43～TK209型式並行である。



第21a図 太郎塚・次郎塚古墳表採出土遺物(1/4)

表1 太郎塚・次郎塚古墳出土土器観察表

挿図番号	調査区名	遺構	種別	器種	法量				調整		胎土	焼成	色調		備考
					口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第9図1	TRK 7Tr	周溝	須恵	坏蓋	(12.7)			2.5	回転ナデ	回転ナデ	E	良好	黄灰色	黄灰色	
第9図2	TRK 7Tr	周溝	須恵	高坏			(16.1)	15.5	回転ナデ	シボリ・回転ナデ	BCE	良好	褐灰色	黄灰色	3方向2段スカン
第9図3	TRK 7Tr	周溝	須恵	高坏	(7)	(2.5)		2.1	回転ナデ・カキ目後ナデ	回転ナデ	EF	良好	褐灰色	黄灰色	坏部外面にヘラ記号
第9図4	TRK 7Tr	周溝	土師	高坏	(18.6)			5.5	回転ナデ	回転ナデ	BD	良好	にぶい赤褐色	明褐色	
第9図5	TRK 7Tr	周溝	須恵	甕	(12)			3.2	回転ナデ後ヘラ工具施文	回転ナデ	B	良好	褐灰色	褐灰色	
第9図6	TRK 7Tr	周溝	須恵	横瓶					回転ナデ	回転ナデ	BCE	良好	褐灰色	褐灰色	胴部に工具ナデ
第9図7	TRK 7Tr	周溝	須恵	提瓶	(6)			3.5	回転ナデ	回転ナデ	BCE	良好	褐灰色	褐灰色	
第9図8	TRK 7Tr	周溝	須恵	提瓶					カキ目	回転ナデ	BCE	良好	赤灰色	赤灰色	
第9図9	TRK 7Tr	周溝	須恵	器台		(29.4)		10.3	回転ナデ・カキ目後タタキ	回転ナデ・アテ具痕	CE	良好	褐灰色	褐灰色	
第9図10	TRK 7Tr	周溝	須恵	器台			(27)	12.7	カキ目後沈線	回転ナデ	CE	良好	黄灰色	黄灰色	三角スカン
第10図1	TRK 7Tr	周溝	須恵	大甕	(34.6)			16.2	刺突文・沈線・カキ目ナデ	回転ナデ	BCE	良好	褐灰色	灰黄褐色	
第10図2	TRK 7Tr	周溝	須恵	大甕				68.7	タタキ後カキ目・回転ナデ	回転ナデ・アテ具痕	BE	良好	褐灰色	褐灰色	
第12図1	TRK 11Tr	周溝	須恵	高坏		(3.5)		4.6	回転ナデ・カキ目後ナデ	回転ナデ	BE	良好	灰黄褐色	黄灰色	3方向スカン
第12図2	TRK 11Tr	周溝	須恵	甕				4.5	刺突文・回転ナデ・沈線	回転ナデ	F	良好	褐灰色	褐灰色	
第14図1	JRK 1Tr	墳丘盛土	須恵	坏蓋	(12.1)			3.95	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ	BE	良好	黄灰色	黄灰色	
第14図2	JRK 1Tr	墳丘盛土	須恵	坏身	(12.4)	(15)		3.4	回転ナデ	回転ナデ	BCE	良好	褐灰色	黒褐色	
第17図1	JRK 4Tr	周溝	須恵	坏蓋	(13.7)			2	回転ナデ	回転ナデ	F	良好	褐灰色	褐灰色	
第20図1	JRK 9Tr		須恵	坏蓋	(11.8)			2.5	回転ナデ	回転ナデ	ABE	良好	暗灰色	褐灰色	
第20図2	JRK 9Tr	柱穴	須恵	坏蓋	(11.4)			3	回転ナデ	回転ナデ	F	良好	褐灰色	暗灰黄色	
第20図3	JRK 9Tr		須恵	坏身	(12.2)			3.2	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ	CE	良好	灰色	灰色	
第20図4	JRK 9Tr		須恵	高坏	(12.3)			4	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	灰色	灰色	
第20図5	JRK 9Tr	周溝	須恵	高坏		(11.4)		4.6	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	灰色	灰色	
第20図6	JRK 9Tr		須恵	高坏		(12.6)		3.8	回転ナデ	回転ナデ	BE	良好	褐灰色	黄灰色	
第20図7	JRK 9Tr		須恵	高坏		(16.8)		5.2	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	灰色	暗灰黄色	
第20図8	JRK 9Tr		須恵	甕		(9.5)		7.5	回転ナデ・カキ目・ハケ工具刺突文	回転ナデ	BCD	良好	褐灰色	褐灰色	注口部有り
第20図9	JRK 9Tr		須恵	長頸壺				2.8	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	褐灰色	褐灰色	
第20図10	JRK 9Tr		土師	高坏		(4)		3.6	ヘラケズリ	シボリ	B	良好	橙色	橙色	
第20図11	JRK 9Tr		土師	長頸壺		(13.5)		10.4	回転ナデ・オサエ	回転ナデ・ヘラケズリ	BD	不良	灰白色	灰白色	
第21a図1	TRK・JRK表探		須恵	坏蓋	(13.8)			2.9	回転ナデ	回転ナデ	ABD	良好	黄灰色	黄灰色	
第21a図2	TRK・JRK表探		須恵	坏身	(11.8)			3.6	回転ナデ	回転ナデ	BD	良好	黄灰色	褐灰色	
第21a図3	TRK・JRK表探		須恵	高坏		(7.2)		7	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	褐灰色	褐灰色	
第21a図4	TRK・JRK表探		須恵	甕		(9.8)		5.9	回転ナデ・ヘラケズリ・沈線	シボリ・回転ナデ	B	良好	黄灰色	褐灰色	

法量の単位はcm。()書きは、残存と復原を表す。
胎土:A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子

表2 太郎塚・次郎塚古墳出土馬具観察表

挿図番号	調査区名	遺構	器種	作り	法量			
					全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
第20図12	JRK 9Tr	2区	三葉形杏葉	鉄地金銅張	2.5	3.3	0.9	7.9

小結（第 21b 図）

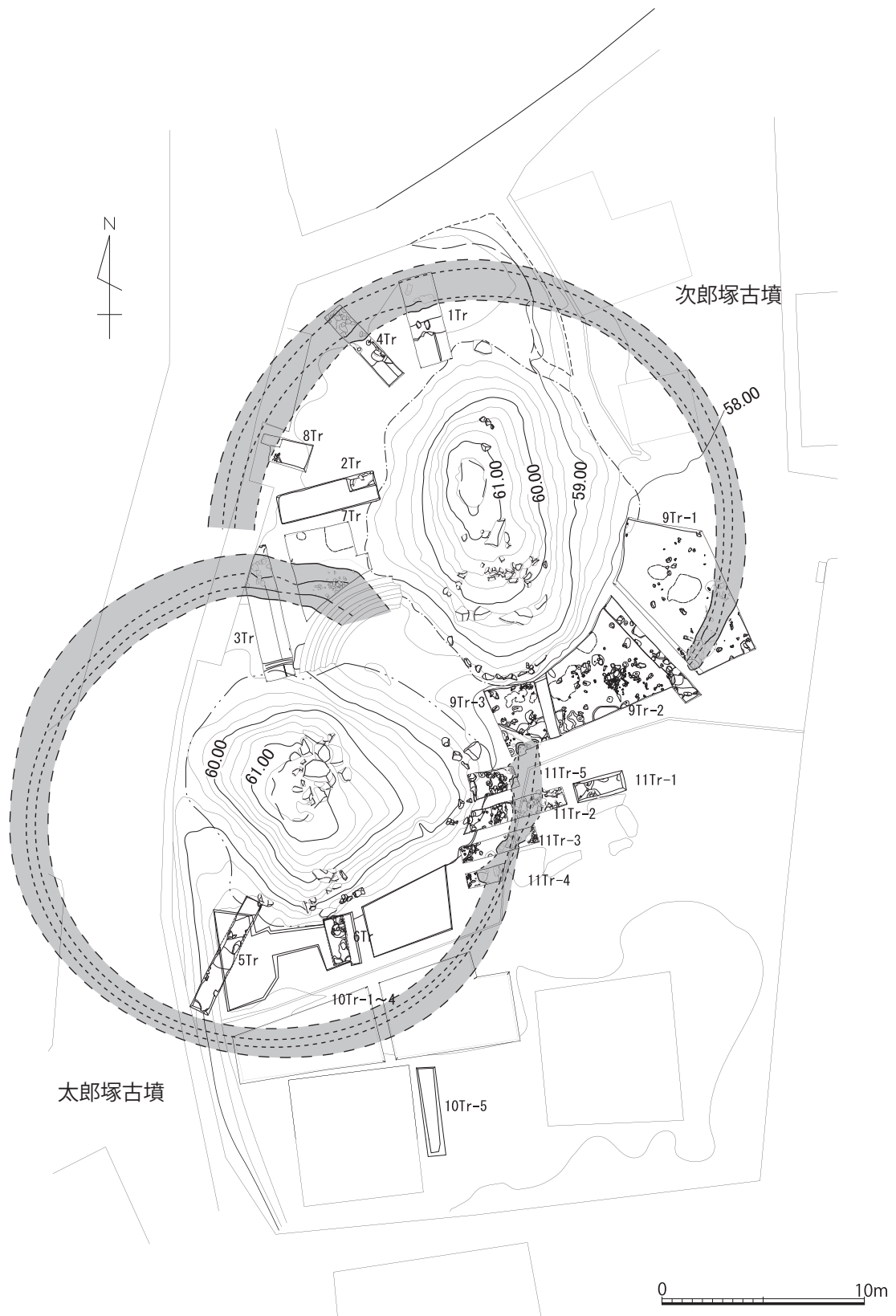
前述してきたように太郎塚古墳と次郎塚古墳について、周溝や墳形の確認のため調査区を設定し発掘調査を実施してきた。その中でも、太郎塚古墳では 3・7 トレンチ及び 9 トレンチ 3 区、次郎古墳では 1・4 トレンチ及び 9 トレンチ 1 区墳端や周溝の確認できた。これらの成果を基に復元案（第 21b 図）を作成した。トーンで塗りつぶした部分は、各古墳の周溝上端が確認できた箇所から復元したものである。また、周溝中の 2 本のラインは、周溝底部を確認した箇所から復元した。それでは、各古墳の復元案について見ていきたい。

第 21b 図の太郎塚古墳の墳丘北側における周溝は、周溝底ラインで方向を確認すると、道路下から 3 トレンチ北端を通り、弧を描くように 7 トレンチの次郎塚古墳との間に設けられている石垣の階段の下に潜り込んでいるのが確認できた。また、墳丘南側平坦面では、ほとんど調査区で遺構面が削平されていたが、11 トレンチ 1～5 区で薄い堆積で周溝埋土がみられ、この周溝が 9 トレンチ 3 区の南壁面西側に沿って検出した土坑は須恵器・土師器片が多く出土した地点で、この土坑が周溝とつながり切れるものと考えられる。これらの検出した周溝底部の墳丘側の立ち上がりをつなぐと、墳長径約 23.0m の円形となる。周溝の墳丘外側上端は、現状で全長約 25.0m 以上であると想定できる。

次に、次郎塚古墳については、墳丘北側に平坦面の 1・4 トレンチで周溝を検出したが、対岸の立ち上がりは確認できず、調査区外側に拡がっているものと思われる。また、墳丘西側に設けた 9 トレンチ 1～3 区は、後世による削平や攪乱を受けているが、9 トレンチ 1 区で溝状遺構を検出した。この溝状遺構は、埋土の堆積が薄いものの墳丘にほぼ平行し、弧を描くように巡っていることから、次郎塚古墳に伴う周溝である可能性が高い。これらの調査区で検出した周溝下端を繋ぐと、墳長約 24.0 m の円墳となる。周溝の墳丘外側の上端ラインについては、確認できた箇所が少ないため、正確には判らないが少なくとも、全長 26.0 m 以上となるものと推定できる。

以上、両古墳の周溝と規模について述べてきたが、築造順についてはどうであろうか。両古墳とも墳丘北側で明瞭な周溝を確認したが、2・8 トレンチでは削平により検出できていない。しかし、両古墳の周溝が接合すると想定される 3・7 トレンチで周溝の切り合いが確認できない。また、両古墳の立地が 2.5m と近接していることから、設計段階での順序はあったものと推測される。

第 21b 図をみると、次郎塚古墳は、墳丘が南北方向に楕円形となり、墳丘南側の等高線 59.500 m の箇所に羨道部の天井石と考えられる扁平の石材がみられることから、次郎塚古墳の主体部入口は、墳丘南側の 9 トレンチ 3 区側で間違いのないと思われる。この 9 トレンチ 3 区で検出した太郎塚古墳の周溝は、次郎塚古墳の主体部への入口があるため途切れていると判断できる。つまり、設計段階で太郎塚古墳の墳丘と周溝が先に設計され、次に次郎塚古墳設計されたものと考えられる。しかし、墳丘の築造時期については、出土遺物より TK43 型式並行の同時期に築造されたものと考えられる。



第 21b 図 太郎塚古墳・次郎塚古墳墳丘復元図 (1/300)



太郎塚古墳3 トレンチ周溝検出状況



太郎塚古墳3 トレンチ完掘状況



太郎塚古墳3 トレンチ周溝土層堆積状況



太郎塚古墳5 トレンチ完掘状況



太郎塚古墳6 トレンチ完掘状況



太郎塚古墳7 トレンチ周溝内遺物出土状況



太郎塚古墳7 トレンチ南側土層堆積状況



太郎塚古墳10 トレンチ北側完掘状況



太郎塚古墳 10 トレンチ南側土層堆積状況



太郎塚古墳 11 トレンチ全景



次郎塚古墳 1 トレンチ周溝検出状況



次郎塚古墳 1 トレンチ完掘状況



次郎塚古墳 1 トレンチ土層堆積状況



次郎塚古墳 2 トレンチ完掘状況



次郎塚古墳 4 トレンチ周溝検出状況



次郎塚古墳 8 トレンチ検出状況



次郎塚古墳 8 トレンチ完掘状況



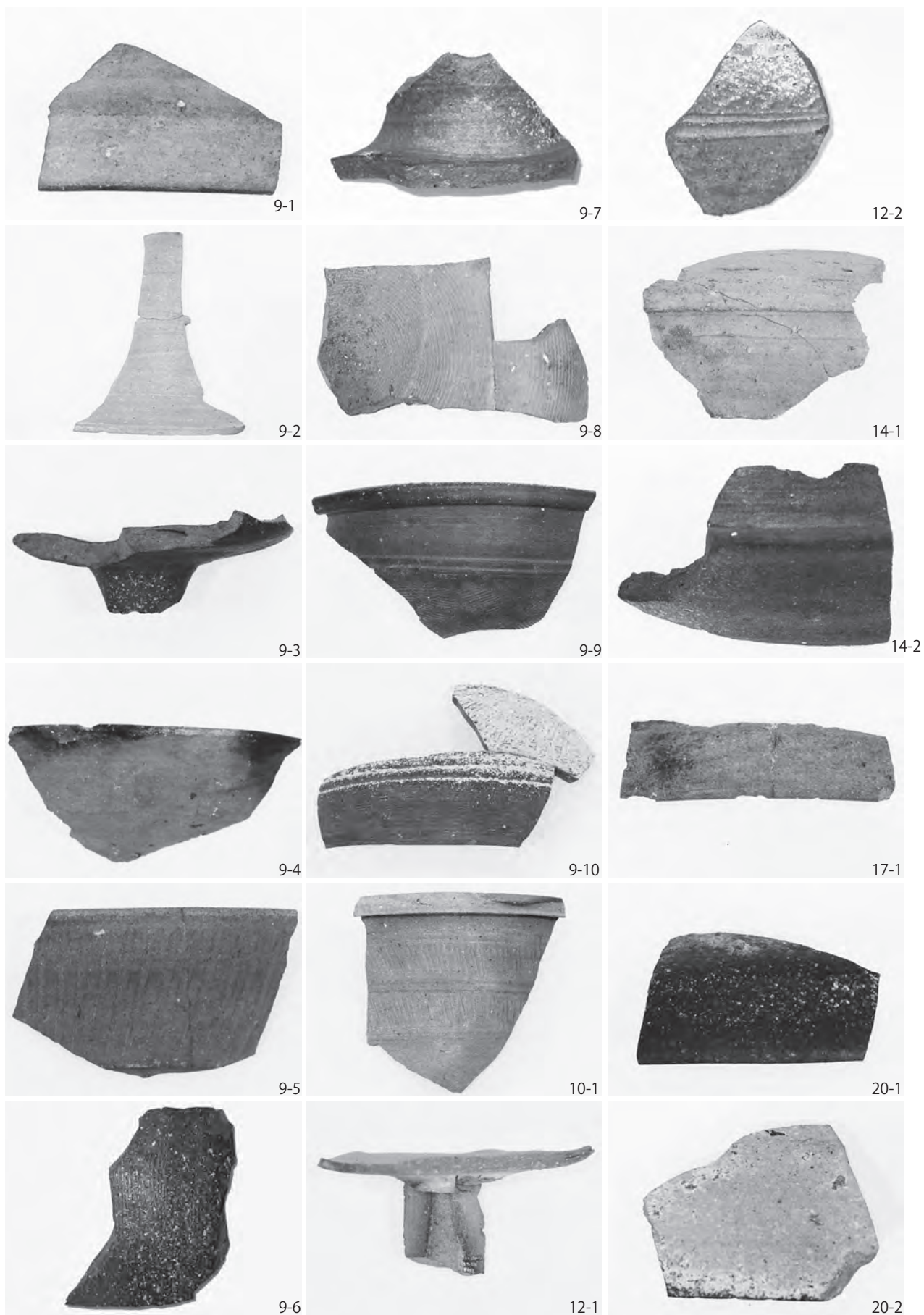
次郎塚古墳 9 トレンチ 1 区周溝検出状況



次郎塚古墳 9 トレンチ 3 区完掘状況



次郎塚古墳 9 トレンチ全景





20-3



20-9



21a-3



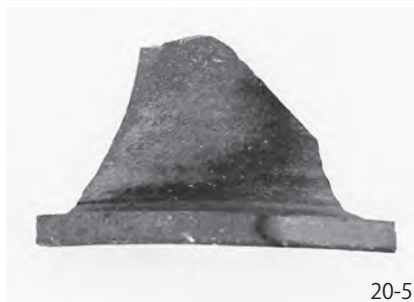
20-4



20-10



21a-4



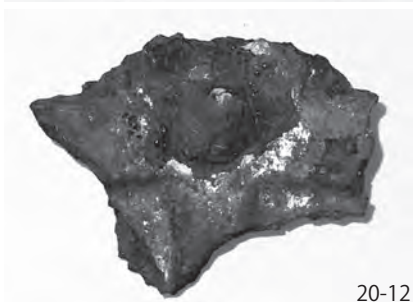
20-5



20-11



20-6



20-12



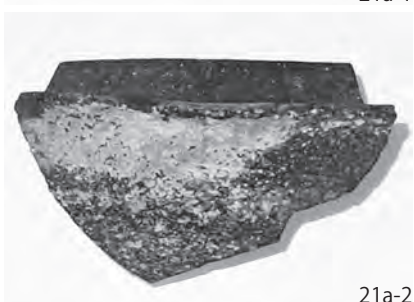
20-7



21a-1



20-8



21a-2